



- ① ジャンルごとにきれいに整理され、仕切りのある学習スペースも整備している館内。
- ② 畳の間には小さな子ども向けの本が充実。絵本の読み聞かせをする親子の姿も。
- ③ 一度に5冊、最大2週間無料で借りることができる。(氷川町・八代市・芦北町在住者のみ)
- ④ 飲食を楽しみながらのんびり本を読めるデッキテラス。



八火図書館の歴史

氷川町出身で、(株)電通の創業者である光永星郎氏は、強い郷土愛の持ち主といわれており、その思いを受けた(株)電通が、創立70周年事業の一環で、昭和48年に青少年育成の拠点の場として、名称に光永氏の雅号が入った「八火会館」を寄贈した。

その後、図書機能を充実させ、昭和50年に名称を「八火図書館」に改めた。平成27年に新八火図書館として現在の場所に生まれ変わった。

※雅号…文人や画家などが本名以外につける名前。



▲光永星郎

催している「本まつり」は、読書感想文・感想画の表彰や展示、そして楽しみ会など、毎回趣向を凝らした内容になっており、子どもたちが本を好きになるきっかけになっている。

また、「文学散歩」は、熊本と関わりのある文学的史跡や文学者ゆかりの地を散策するもので、文学好きの参加者から好評を得ている。

知りたいことがすぐ手に入るインターネットも便利だが、

時として断片的な情報しか得られないことも。本を探し、読むことで、自分が求めている以外の情報に思いがけず出会うことができ、私たちの知識と心をより豊かにしてくれる。

ゆったりと本や新聞を楽しむお年寄り、静かに休日の読書に浸る社会人、調べ物や勉強をする若者、絵本を探しにくる親子…すべての世代が気軽に利用できる八火図書館で、素敵な本を探してみよう。

住人十彩

2021 December

#20 八火図書館～



八火図書館職員の小野晶子さん(左)、三枝卓也さん(中央)、藤本ゆかりさん(右)

地域の交流拠点を目指して

宮原振興局に併設されている八火図書館。自然の光が入りやすいように設計された、明るく開放的な雰囲気。館内には、話題の本や雑誌、子ども向けの本など、約4万3千冊の蔵書が並び、運営の基本理念は、「あらゆる世代に身近で、人々が集い学び合う図書館」。図書館が地域住民の交流の場となることを目指し、ニーズに合わせた図書資料の収集や、誰でも気持ちよく利用できるような環境整備を心がけています。」と話すのは、平成30年から館長を務める三枝卓也さん。

また、特徴的なのは子ども向けの図書の充実度。児童生徒の学習に関する図書や物語、絵本などがずらりと並び、その割合は、保有する図書の約半分を占める。学校帰りや休日には、親子で一緒に図書館を利用する姿も多くみられ、コミュニケーションをとる場所にもなっている。

より多くの人に本に関心を持ってもらうために、独自のイベントも行う。

読書を通じて立派な人になって欲しい、という願いを込めて開